

様式 3

平成 3 0 年度 第 1 回学校関係者評価報告書

鳥取県立皆生養護学校

学校長 河 本 史 幸

評 価 日		平成 3 0 年 6 月 6 日 (水)	
委 員	氏 名	資格・所属等	委員長
	小 谷 幸 久	元教頭	○
	岡 野 博 道	元 P T A 会長	
	宮 本 い ず み	ビジネスマナーインストラクター	
	田 中 弥 生	P T A 会長	
	吉 田 典 穂	かいけ心正こども園園長	
評 価 ・ 提 言		学校の所見・改善策等	
<p>1. 前年度の最終評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>2. 前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>3. 今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間企業では残業を減らすと売りが落ち、かなり厳しいという話を聞いた。相当知恵を絞って民間はやっている。時間外業務削減について、より具体的にスケジュールを立てると達成しやすい。ペーパーレス、目的の明確化、事前の周知等会議のあり方を見直すことも有効である。一つ一つの仕事のあり方を再検討する、時間外勤務の理由の分析をすることも重要である。 <p>(3) 評価基準及び評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>4. 学校運営や予算に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分校との交流について、どのようにされるのか。うまくすりあわせをしながらゆっくりと進められるとよい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・時間外を減らすことによって、教育の質は低下させないようにしたい。 ・会議の精選は永遠のテーマである。子どもの障がい重度化し、綿密な計画を立てないと行事が成り立たないという難しさもある。校務分掌を再編成し、会議の数は減っている。会議の持ち方を整理し、実施していきたい。 ・分校との交流のため、児童生徒が行き来できる予算を取っている。交流は無理をせず、間接交流から始め、徐々に行っていく。 	